

## 自己評価及び外部評価結果票

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4161090032		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園 くつろ樹		
所在地	佐賀市大和町大字久留間3865-1		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年10月27日	外部評価確定日	平成27年11月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体施設の経営理念、処遇モットーを柱に、くつろ樹では「家庭的な環境の下で、地域住民の方々との交流を図りながら、お客様お一人おひとりが個人の個性とや持てる力を大切に、自分らしく当たり前の暮らしを続けられる場所であるよう努力します」を基本方針として掲げ、また、常に笑顔で接し、お客様がご自分の想いを伝えやすい家族のような存在となり、安心して楽しい生活を送って頂けるよう、お客様の意思及び人格を尊重し、常にお客様の立場に立った支援を目標に努力しているところです。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設14年目を迎え、母体の法人と共に地域に溶け込んでいるグループホームである。静かな山里の中、周りはミカン園も多く、季節による風景の移り変わりは、利用者に季節を感じさせ、心を和らげてくれる。家庭的な雰囲気の中で、その方らしいおだやかな日常生活が送れるようにと支援する職員の温かい心が感じられる事業所である。職員は、人間愛のもと、利用者の尊厳を最大限に尊重しながら、明るく笑顔で日々の支援にあたった。その笑顔は面会に訪れた家族にも向けられ、気軽に訪ねて行きやすさと話のしやすさを感じさせ、信頼感をもたらしている。また、職員間のチームワークが何よりも良く、職員の生き生きとした働きぶりと相まって、それが利用者のやわらかい表情となって現れている。</p> <p>利用者の希望を取り入れて花見、菖蒲園、バルーン、コスモス園等にも出かけている。ボランティアの来園も多く、特に調理ボランティアはこのホームならではの。利用者の経験を生かしたキュウリ漬や梅干し、わらび餅づくり等も行われている。また、保育園や幼稚園、小中学校や高校との交流も活発である。保育園ひなた村との交流会での赤ちゃんの来園は、利用者の楽しみとなっている。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体施設の経営理念、処遇モットーを基本に、くつろ樹独自の基本方針、目標を立てて取り組んでいます。また、事業計画は毎年、基本方針を基に作成しています。	利用者の視点に立って毎年理念を再検討している。定例の部会や、日常の支援の中で、課題が見つかった時は特に理念に立ち返って理念の具体的な姿を追い求めている。管理者の適切な指導は、職員の意識を一つにまとめている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する特別養護老人ホームと協力しながら、地域の幼稚園や小学校、中学校との交流を持ち、外出、受け入れを行い交流を図っています。また、地域へのドライブや友人の面会など繋がり継続に努めています。	法人が地域の自治会に加入し密着を図っている。事業所も、出来る範囲内で地域と交流を持っている。散歩中にゴミ拾いをしたり、作業中の農家からミカンや野菜をもらうことも多い。地域の祭りの準備や後始末には職員も出ている。ホーム内での子どもキャンプもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体施設の経営企画室において、地域での出張講座を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催中。行事報告や予定、ホーム内での出来事等を報告し、家族、民生委員のご意見や質問、またくつろ樹側からの提案等について話し合い、サービスの向上に活かす努力をしています。	単なる報告やお知らせに終わることなく、各推進委員から多様な質問や意見が出され、有意義な会議となっている。地域の高齢化の実情、介護保険の改正、地域との交流についての助言、地域にあるNPO法人との連携、利用者と幼児との交流等は、その一例である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において情報交換を行っており、情報交換や意見交換を行うことで協力関係を気付いています。	包括支援センターとは、毎回の運営推進会議で話し合いを持ち、事業所の実情や情報等を共通認識し協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び、全ての職員が身体拘束について正しい理解が出来る様、園内研修会等を開催しており、正しい理解の下、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束ゼロの支援について職員の認識も高く、これまで身体拘束の事例はない。玄関の出入りも自由で、外出する利用者には職員が付き添っている。各居室には鍵もあり、自分で施錠する利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月会議にて周知を図り、また高齢者虐待についての資料を回覧し、常に意識しながらケアにあたっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等への参加はありませんが、パンフレットの回覧等を行い、知識の向上へと努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用契約書、重要事項説明書の十分な説明及び、退去時にも説明、話し合いの場を設け、ご理解、納得頂けるよう対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議に参加して頂き、ご意見を尋ねる機会を設けています。また、年1回無記名でのアンケートを実施し、ご意見や不満、苦情等を表せる機会を設け、意見等に対しての是正を行っています。	面会時等には職員が明るく笑顔で接しており、家族も極めて意見等を言いやすく感じている。ご意見箱を置いたり、アンケートを実施し、サービスの向上に結び付けている。利用者への声のかけ方や語調、電話相談に対するの対応の在り方等は運営に反映された例でもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会等での意見交換、提案や日頃の会話の中からの意見や提案を基に上申しています。	定例の部会や業務サービス会議等で困っていることや改善点について忌憚のない意見や提案が出されている。管理者と職員は意思の疎通も十分である。意見は法人自体へも伝えられ、質の高いサービスとなって反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課や所属長での聞き取りを行っています。また、福利厚生にも力を入れており、働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育訓練計画に基づき、職員の研修参加の機会を設け、知識、技術の向上に努めています。外部研修への参加はあまり実施ができていません。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム関係の研修会参加を通じ、同業者との交流の機会を持ち、他施設の状況や情報を収集し、自施設のサービス向上に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者より相談から利用に至るまで十分に配慮しています。また、利用を開始する段階では、施設内の見学を含め、管理者による面談等を通じ、ご本人が安心してご利用頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者より相談から利用に至るまで十分に配慮しています。また、利用を開始する段階では、施設内の見学を含め、管理者による面談等を通じ、ご本人が安心してご利用頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者により十分に把握されています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみなど生活の中での取り組みは共に行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やサービス担当者会議、運営推進会議等を通じ、より良い信頼関係を築く努力をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの方々の面会の時には、居室へ案内するなど、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮しています。	墓参りや馴染みの美容室の利用、公園やこれまで過ごしていた所への外出、誕生日プレゼントの夢かなえとして一時帰宅して親族と楽しいひとときを過ごす利用者もある。友人や知人の訪問もあり、居室でゆっくりと過ごしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係を職員全体が共有し、お客様お一人おひとの個性を大切にしながら、席順やトラブルになる前の早目の対応を心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中での取り組みを行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス担当者会議や毎日の生活の中で、ご本人の希望や要望を把握する努力をしています。また、いつでもご利用者主体である事を忘れずに取り組んでいます。	利用にあたっての諸情報からだけでなく、日々の関わりの中での会話、つぶやき、ちょっとした表情の変化やしぐさ等からも思いや意向をつかむように常に気を配りながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやサービス担当者会議、日常の会話や面会時の等の会話を通じ、生活歴や今までの経過等を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの現状を十分に把握出来るよう、毎月の部会等で話し合いを行っています。また、急な変化等についても職員連絡ノート等により職員間の連絡を密に取り、状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年に一度は家族、利用者同席して頂いてのカンファレンスを開催し、意見や要望等を反映した計画作成に努めています。	利用者や家族の要望を基にして解決できる具体的な目標が立てられている介護計画である。評価や計画の見直しもきちんと行われている。事業所独自に作成し記録している「介護計画評価表」でも本人の個性を的確に捉え、意欲の維持に結び付けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況は各ケース記録に記載し、ケアプラン実施状況についても記録しています。又、毎月の部会においてもケアプランの実施状況を協議しながら実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人や家族の要望に応じ、対応できることについては、臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや民生委員の訪問などを行っています。夏祭りには、地域のボランティアや自治体等の協力を得て開催しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族の希望があれば、ホーム協力医へ変更しておりますが、以前からの主治医を希望される利用者に関しては、家族を通じ十分な情報交換に努めています。	利用者、家族が希望するかかりつけ医での受診であるが協力医療機関での受診がほとんどである。協力医療機関とは24時間いつでも相談出来る体制である。往診もある。協力医療機関での受診にあたっては職員が同行、支援する場合が多い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師にて日常の健康管理を行っています。また、急な対応に関しては法人の医務看護課職員の協力もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、定期的な病状伺いを行い、担当医、担当看護師、ご家族との情報交換を行いながら、早期退院に向けての話し合いの場を設けて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び、看取りに関する指針を定めており、協力医療機関と共に支援していく体制作りにも努めています。	入居時に利用者や家族と指針を基に納得のいく話し合いが待たれ、家族の同意も得ている。看取りの事例もあり、揺れ動く家族の心情を十分に配慮し、主治医を中心にして、チームとして支援している。看取りにあたっては職員の精神的な負担へのフォローも大事にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう、周知徹底を行っており、その場での実践につなげる努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災自動通報装置、消火器、スプリンクラーを設置しております。又、昼間、夜間帯での消防訓練を行っております。近隣の方にも協力をお願いします。	年に2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練にあたっては自動通報装置が近所の家ともつながっており、地域の協力も得ている。避難経路、避難場所、手順の見直しもその時の状況に応じて検討している。震災訓練を行ったこともある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や部会を通じ、常に個人の尊厳を重視した対応を心がけています。	人間愛をもって、一人ひとりの人格、尊厳を十分に尊重することを支援の基本にしている。言葉かけひとつにしてもそれが現われていた。指示的な言葉、否定的な言葉も聞かれない。個人情報 は運営規程通りにもきちんと管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し、自己決定の存続が図れるような対応を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者主体の生活を心がけ、利用者の立場にたった支援が出来る様努力しています。また、その日、その時の状況により決して無理強いをしない柔軟な対応を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様と共に衣類を選んだり、馴染みの美容室へ通うなどの支援を行っています。自己決定が困難な方には、その方に応じた支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好を伺い、メニューを決めたり、ご利用者と共に下ごしらえ、盛り付けを行っています。また、食後は、食器拭きを負担にならない程度にお願いし、共に行っています。昼食は、職員も同じテーブルで同じ食事を摂っています。	職員も同じ食卓で利用者をそれとなく見守りながらの一緒に食事であり、家族的な食事風景でもある。食事介助もごく自然である。調理の際の匂いや音などは利用者の五感を刺激している。ホームの畑で栽培した野菜の利用もある。献立は管理栄養士の指導を受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態を把握し対応中です。また、利用者の好みのものを誕生日会のメニューに加えるなど個々に応じた対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える利用者には、毎食後の言葉かけを行い、介助が必要な利用者には、個人に応じた対応を心がけています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の排泄案内や行動を察知しての排泄案内を行い、また、自立された利用者に関してもトイレ内の確認を行うなどして、利用者の排泄状況を把握しながら、その時々状況に応じた支援を行っています。	一人ひとりの排泄の習慣がきちんと把握されている。定時的な、または様子から察してのさりげないトイレ誘導が行われている。各居室にもトイレが設置されているが、昼間は共用トイレでの支援が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品を食事やおやつに取り入れています。便秘傾向にある利用者に関しては、腹部マッサージ等の対応や運動への働きかけを行い、出来る限り自然排便となるように心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前、午後を通して入浴できるように準備しており、その時々利用者の状況や入浴希望に則した対応を心がけています。	基本的な入浴日はあるが、入浴の準備は毎日出来ており、希望する方は何時でも入浴ができる。入浴についての特別な制限は無く、希望に応じた入浴である。入浴を億劫がる方には無理強いすることなく、時間を置いたり、状況を見て本人の気持ちを尊重した入浴支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態や日中の様子等、状態把握を行い、ソファで寛いで頂いたり、場合によっては自室での静養を勧めるなどの対応を行っています。また、出来るだけ日中の活性化を図りながら、安眠に繋がるよう努力しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書は各個人のケースファイルに入れ、直ぐに確認できるようにしています。内服変更時には、連絡ノートに記載し、職員への周知徹底を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活歴や残存機能を把握し、生活の中で役割ややりがいを感じて頂けるような機会や場面づくりに取り組み、持てる力を十分に発揮していただけるよう努めています。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の状況や希望に沿って外出できるよう努めています。また、家族の希望に応じた外出支援にも努めています。	広い法人の敷地内や、近くの農道を散歩している。希望によって買い物に出かけ、知り合いの方と会って会話を交わすことも多々ある。また、家族の協力も得ながらバルーン見学や花菖蒲園、コスモス園等に出かけたり、誕生日祝いとして好きな所にも出かけることがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じて、お金を所持し使えるように対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときには、都度対応中です。手紙やはがきが届いた際には、返事を書いて頂くなど行う様努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は天候によって障子を閉めたり、蓆簀を使用するなどの配慮を行っています。室温湿度にかしては1日3回のチェックを行い、快適に過ごして頂けるよう配慮しています。	明るくて広い居間と、それに続く畳の間は利用者がゆっくりと過ごせる場所になっている。ソファでゆっくりとテレビを観ている方もある。新聞や個人童謡集、個人アルバムも見受けられる。季節の野山の花もさりげなく生けられ季節を感じさせる。広いウッドデッキも有効に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間のテーブルや周辺ソファ、台所側のスペース、暖かい日にはウッドデッキなど好きな場所で思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物品の持ち込みについての説明を行い、家族で準備して頂いています。また、誕生日プレゼント等で好みの物品を準備し、飾るなど、居心地良く過ごして頂けるよう心がけています。	馴染んだ品物や使い慣れた物の持ち込みに制限はない。お気に入りの洋服、半年以上かけて制作した自慢の手芸作品、家族の写真、使い慣れた椅子、その他色々な物が見受けられる。各居室ともその方がゆっくりと安心して過ごせる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別支援を大切にしながら、個々に応じた対応を心がけ、安全で、出来る限り自立した生活が遅れる様努力しています。各居室にはネームプレートを使用。建物自体はバリアフリーとなっています。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。  (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。  (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない